

いぬはりに

vol.

10

ユキトリキマテルネル
ココロとカラダに心地いい定番ウエア
安全のスペシャリスト
マキテックのセイフティー★ガイド

Inuhariko Topics
すくすく育つ、地域の子ども
—— 認定こども園 子どもの森

北欧だより
子どもたちが安心して遊べる園庭を
文化作品のある風景
園のみんなを笑顔で包む「笑う少女」



Creator's voice

鳥居ユキ インタビュー

嬉しい、楽しい 着る人が主役の服づくり

Creator's voice

鳥居ユキ インタビュー

嬉しい、楽しい 着る人が主役の服づくり

デザイナーとして46年のキャリアを持つ鳥居さん。パリと東京に拠点を置き、長年に渡りモード界の第一線を走り続けています。

「いつも楽しく健やかに」——ジャクエツとコラボレーションした園児服には、鳥居さんの服への想いが息づいています。



Profile

鳥居ユキ Yuki Torii

東京生まれ。ブティック銀座トリキを祖母、母の代より受け継ぐ。62年、母君子のコレクションに作品を出品。以後、年2回開催恒例化。75年、パリコレクションに初参加。85年、パリにブティックをオープン。76年、88年、FEC賞、95年FEC話題賞及び毎日ファッション大賞、05年毎日ファッション大賞特別賞。08年10月上海ファッションウィークに招聘デザイナーとして参加。



プリント生地に憧れた少女時代

—— 幼少時代はどのように過ごされましたか？

祖母と母が洋装店を営んでいる環境だったので、家の中にはきれいなレースやキラキラした生地のハギレがたくさんありました。5歳頃から、紙にお人形の絵を描いて、その上にハギレを洋服の形に切って貼りつける、コラージュ遊びがお気に入りでした。

—— ファッションに興味を持ったのはいつ頃ですか？

小学校高学年から中学生頃には「自分が着たいもの」を意識するように。私の子ども時代、日本は織物の生地がほとんどで、プリント生地は珍しかったの。アメリカのティーン向けファッション雑誌に出てくるプリントに憧れて、自分で考案したプリントを、15歳頃から作りはじめました。最初の作品は、ニワトリのようなモチーフだったかな（笑）。

30年以上に渡り、第一線で活躍

—— 1975年のパリコレデビューから34年間、パリと東京で新作を発表し続けている理由と、その原動力は？

よい環境に身を置くと、また新しいものが生まれてくる。年2回のコレクション中心の生活は、私



趣味は、自宅で楽しむガーデニング。季節の花々に語りかけながら世話をするのが日課。

にとつて、とても自然なこと。特にパリでの暮らしは、徹夜で仕事に追われる日もあるけれど、信頼するスタッフたちと食事や生活をともにしながら、むしろ東京より心豊かに過ごしている気もします。東京に帰ると、コレクション準備の合間に体調管理のため、体中のあちこちを病院で検査。主人がきっちり管理して、私のスケジュールに組みこんでくれます。

—— 鳥居さんにとつて、洋服とは何でしょうか？

毎日の生活を楽しく健やかに過ごすためのもの。女性は洋服によって、今日はスポーティーに、明日はちょっとロマンティックにと、未知の自分を発見したり、変身することができるでしょう？

—— 最近、ご自宅でガーデニング



東京にある鳥居さんのアトリエ。アイデアのインスピレーションを受け取る資料や絵、写真などが並ぶ、シンプルで居心地のよい空間。



鳥居さんが仕事場で愛用しているピンクッション。



今年3月に開催したYUKI TORII INTERNATIONAL「2009-10年秋冬コレクション CHIC & JOY」。“嬉しい、楽しい気持ち”をテーマに、大人の女性のエレガントな優しさや可愛らしさを提案し、多くのファンを魅了しました。

レースやリボンなどのきれいなハギレ、ドレスの刺繍に入れこむための宝石のようなキラキラパーツ。どれもキュートでかわいらしい少女時代の宝物。「かわいいものが大好きなのは、いまも昔も変わらないわね」。



子どもは社会のなかで、いろいろな経験を積みながら成長するもの。幼稚園や保育園は、子どもにとって、家族以外での初めての社会です。園児服に着替えることは、子どもながら社会の一員として意識する、ひとつのきっかけになると思います。「YUKI TORII」の園

児服は、安全性や機能性、清潔感を基本に、子どもの動きを考慮した、気持ちよく着られるデザインにしました。

——鳥居さんが考える「子どもの服」とは？

いま、だれもが忙しい時代だから、親御さんたちも「早く早く」と、子どもをせかしてしまいがち。でも、ちょっと余裕を持って、子どもが着る服を、その日の気分や気候、目的などを考えながら、自身で選ばせてあげて。ちぐはぐなコーディネートになっても「ダメ」と否定せず、「そうね、こんな感じでもいいんじゃない？」と言うくらいに。私も孫にはそんなふうに接してきました。だんだん素敵にコーディネートできるようになるから、そのときは思いきり褒めてあげてくださいね。

子どもたちの成長を願って

——ジャクエツとのコラボレーションで園児服のデザインをされていますが。

子どもは社会のなかで、いろいろな経験を積みながら成長するもの。幼稚園や保育園は、子どもにとって、家族以外での初めての社会です。園児服に着替えることは、子どもながら社会の一員として意識する、ひとつのきっかけになると思います。「YUKI TORII」の園

を楽しまれているそうですね。土や植物と触れ合う時間はとても貴重。ガーデニングって、子育てと似ているの。毎日様子を見て、「この子は元気かな?」「ちよっとお水が足りないかしら?」と、朝出かける前に、駆け回ってお世話します(笑)。

——鳥居さんが考える「子どもの服」とは？

いま、だれもが忙しい時代だから、親御さんたちも「早く早く」と、子どもをせかしてしまいがち。でも、ちょっと余裕を持って、子どもが着る服を、その日の気分や気候、目的などを考えながら、自身で選ばせてあげて。ちぐはぐなコーディネートになっても「ダメ」と否定せず、「そうね、こんな感じでもいいんじゃない？」と言うくらいに。私も孫にはそんなふうに接してきました。だんだん素敵にコーディネートできるようになるから、そのときは思いきり褒めてあげてくださいね。

ユキトリキマテルネル

ココロとカラダに心地いい 笑顔あふれる定番ウエア

「今日は何して遊ぼうか」「お絵かき?」「かくれんぼがいいな!」
ユキトリキマテルネルは、子どもたちの動きを第一に考えた、
成長に優しい工夫がいっぱい。
小さな冒険家たちの毎日が、ずっとキラキラ輝きますように。

錯視効果背ベルト

子どもが着ると、のっぺりと胸が長く見えがちなジャケットスタイル。背中に太めのラインを入れることで、ウエスト位置をきちんと認識。目の錯覚効果ですっきりと足長に見えます。

point 1

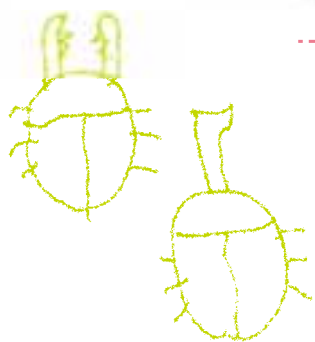


雨蓋付きポケット

ハンカチやティッシュ、園庭で見つけた葉っぱやどんぐりなど、子どものポケットには、いろんなものが入っています。雨蓋付きの大きめポケットが、大切なものを落としたり、なくしたりするのを防ぎます。



point 2



point 5

身体にフィットするデザイン

従来品に比べ、肩巾とアームホールが小さくなり、より身体にフィットするシルエットに。子どもの身体的行動パターンに合わせた運動量を確保し、急な動きにもしなやかに対応します。



point 3

オリジナル鈕

ユキトリキマテルネルの美しいデザインロゴを印字した、オリジナルの鈕。高級感のあるエポキシ樹脂を使用しています。



ユニバーサルな前合わせ

男前合わせは、キリリと小丸のデザイン。女前合わせは、やさしい丸みのあるデザインに。ジャケットの合わせ方を変えることで、男女それぞれのスタイルに着こなせる、ユニバーサルなデザインです。

point 6



男の子向けのデザイン



point 4

KID'Sプリーツ

子どもたちの行動や運動パターンを徹底研究し、肩甲骨を中心に、腕の上下運動に対応。ストレッチ素材での対応ではなく、構造での対応として、湾曲型のアクションプリーツを採用し、より確かな運動量を確保しています。





Inuhariko Topics

認定こども園 子どもの森

すくすく育つ、地域の子ども

東京都に認定を受けた「認定こども園」。幼稚園としての運営に保育所機能を付加し、今年4月に開園したばかりの「認定こども園 子どもの森」を紹介します。



歴史ある幼稚園から、
進化したこども園に

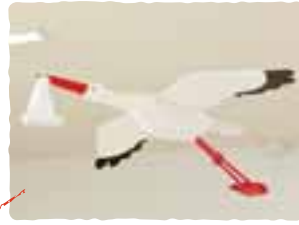
赤やオレンジ、黄緑など、色彩豊かな遊具が並ぶ「子育て広場」は、子どもたちの大好きな場所。東京都稲城市にある「認定こども園 子どもの森」は、創立48年を迎えた矢の口幼稚園と、新たに開設した《子どもの森》チャイルドケアセンターで構成する施設の総称です。幼稚園では新たに7時半～18時半の開所時間の保育所機能を付加し、ケアセンターでは、0～2歳児の保育をスタートしました。

「認定こども園 子どもの森」の園長、角田亨先生は、各地で講演活動や、北欧の幼児施設を何度も視察するなど、幼児教育や子育て支援に積極的に取り組んでいます。多くの女性が結婚してからも仕事を続けていく時代、「女性たちが仕事をしながら、安心して子育てできるようにするには、幼稚園だけでは不十分。幼稚園と保育園の機能を融合させたいという願いが、やっと実現しました」と語ります。

《子どもの森》チャイルドケアセンターでは、保育士の人材確保やシフトの徹底、複数担任制導入などのソフト面から、バギー置場や沐浴室、調理室などの設置、セキュリティ管理といったハード

《子どもの森》チャイルドケアセンター

- 施設概要 鉄骨造 1階建
使用面積 236.14㎡
- 開園時間 月～金曜日
7:30～18:30
- 対象年齢 生後6ヶ月目～2歳児
- 定員 30名：0歳児 6名
：1歳児 12名
：2歳児 12名



事務室にあるこのとりのモバイル。赤ちゃんを運ぶその姿は、事務室を訪れる人々をちょっぴり幸せな気分にしてくれます。



玄関脇には、バギー置場を設置。スペースも広く、さまざまなタイプのバギーに対応しています。



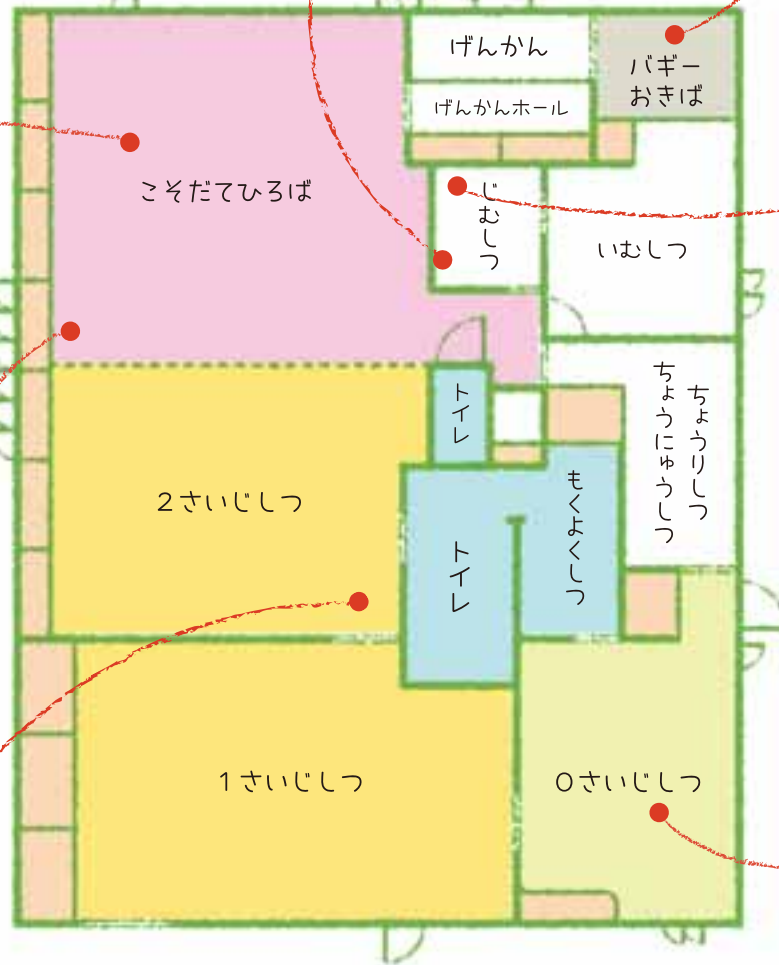
子育て広場には「PLAY+ soft」が置かれています。多彩な色彩にやさしい触り心地。ユニークな形状。子どもたちの創造力がどんどんふくらみます。



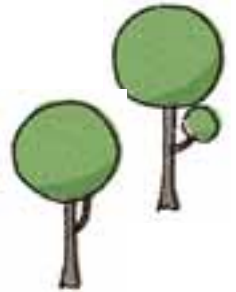
作りつけの本棚には、子どもたちの好奇心を刺激する、さまざまな絵本がぎっしり。棚の上には、かわいいおもちゃや小物が並びます。



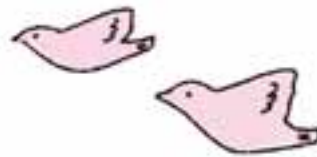
食物アレルギーのある子どもたちへの注意事項を、ホワイトボードに記載して管理しています。



目の届きにくい場所も、モニターチェックできるので安心です。



随所に園長先生こだわりのリトグラフが飾られています。



仕事・子育て等で入園は可能

「認定こども園 子どもの森」では、保護者が働いている・働いていないにかかわらず、保育の受け入れが可能です。園長は「保育が必要なのは、母親が働いている家庭だけではない」という考えから、就労に限らず、親のスキルアップや介護など、各家庭のさまざまな面から判断して、入園の許可を出しています。ほかに、入園していない家庭でも、親子で園を訪れて一緒に楽しい時間を過ごしたり、子育て相談の場を設けるなど、「地域の子育てを幅広く、いろいろな形でサポートしたい」と、細やかな支援活動を展開しています。

地域の子育てステーションとして、今後ますます期待される、「認定こども園」。子どもたちの健全な成長と笑顔を見守っていただけるよう、多くの地域で、気軽に利用できる子育て支援の場が増えていくといいですね。

🌍 北欧だより

子どもたちが 安心して遊べる園庭を



GALAXEN (ギャラクセン) 保育園

- 園児：約80名
(満1歳～5歳の5クラス)
- 保育士：約20名
- 立地：ストックホルム中心地から
車で約30分
- 園舎：一戸建て平屋
- 経営：コミュニティ経営
(日本における公立)

園庭でひとときわ目立つ、ギャラクセン保育園オリジナル「水遊び用の石の水路」。夏になると、水を流して遊ぶのが、子どもたちみんなのお気に入りです。

ギャラクセン保育園は5年前に新築された、比較的新しい保育園です。屋内は平屋で約800㎡の面積があり、園庭はそれより少し広く、子どもたちがゆったり遊べるように造られています。

園庭のデザインは、 mette 園長や職員たちが、設計士や施工業者らと、遊具の素材や安全性、事故予防の対策などを、とことん話し合って決めたもの。その結果、ブランコや滑り台などの遊具を揃えるだけでなく、自然を多く残した、安心して遊べる庭ができあがりました。

これら既存の遊具はすべて、園と契約している業者の安全基準をクリアした製品です。ほかに、園長や職員がデザインを考えた、水遊び用の石の水路やパーベキューコーナーなどオリジナルの遊び場もあります。

園庭の土地は、それぞれの用途に合わせて最適な処理をしています。園の建物の周囲は、三輪車で走り回れるようにアスファルトで舗装し、遊具の下には安全対策の柔らかいマットを敷き、それ以外の場所は、緑あざやかな芝生が覆っています。この芝生スペースは平坦でなく、丘のような傾斜がついているため、子どもたちの運動にも役立っています。夏は元気に駆け回り、冬は積もった雪の上をソリで滑る、自然を大いに利用した遊び方が、子どもたちに大

好評です。

秋になると、園庭の柵に沿って植えられているベリーやりんごの木々に実がなり、子どもたちは自然のにおいを口にできます。自分たちで庭に野菜を植えたり、野生の植物を使ってトンネルを作るのも、みんながお気に入りの過ごし方です。

園庭は老人ホームと隣接しているので、フェンスを挟んで、時折、お年寄り子どもたちとの微笑ましい交流も見られます。子どもたちの遊ぶ姿を眺めるのは、お年寄りにとっても和みのひとときです。

文・写真／岡田幸(在スウェーデン)



自然とのふれあいは、子どもたちの豊かな心を育みます。

ままごと用ハウスの周囲には、事故を防止するための柔らかいマットが敷きつめられています。



園のみんなを 笑顔で包む「笑う少女」

ひとつ、ふたつ、またひとつ。広い園庭のそこかしこに咲く、子どもたちの笑顔の花。みんなの笑顔の真ん中には、今にも笑い声が聞こえてきそうな、愛くるしい少女の姿があります。「長崎平和祈念像」を手がけた、故・北村西望氏の傑作「笑う少女」が園にやってきたのは23年前、1986年の園創立20周年の記念として。「少女のいきいきとしたしぐさ、だれもが笑顔になってしまおうやわらかい表情に、一目で惹かれました。園のみんながいつも自然な笑顔でいられますように」——そんな園長の願い通り、「笑う少女」像は、園のシンボルとして変わらぬ笑みをたたえながら、子どもたちや先生、保護者など、たくさんの人から愛される存在になりました。「みんなの笑顔は、幼稚園の宝物」と話す園長も、やっぱり満面の笑顔。少女はこれからもずっと、子どもたちの笑顔の花をいっぱい咲かせてくれるでしょう。

文化作品のある風景

八王子白百合幼稚園様





ちぎれマス

かさねマス

すかせマス



（パステルカラー10色が
せいぞろい!!

colorful masking tape

—カラフルマスキングテープ—

カラフルマスキングテープセット 幅15mm・幅30mm/各10本 ¥5,210 税込

ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp